

臨時レポート

FOMC(米連邦公開市場委員会)金融政策の現状維持を決定

市場の予想通り金融政策の現状維持を決定、次回の利上げは12月か

- ▶ 年内にあと一回の利上げが見込まれているFOMCでは市場の予想どおり金融政策の現状維持を決定。9月に公表された資産購入プログラムでは10月からバランスシートの縮小開始。
- ▶ 声明では12月の利上げについて言及はなかったが、景気判断が引き上げられ次回利上げの可能性が高まったとの見方が大勢に。

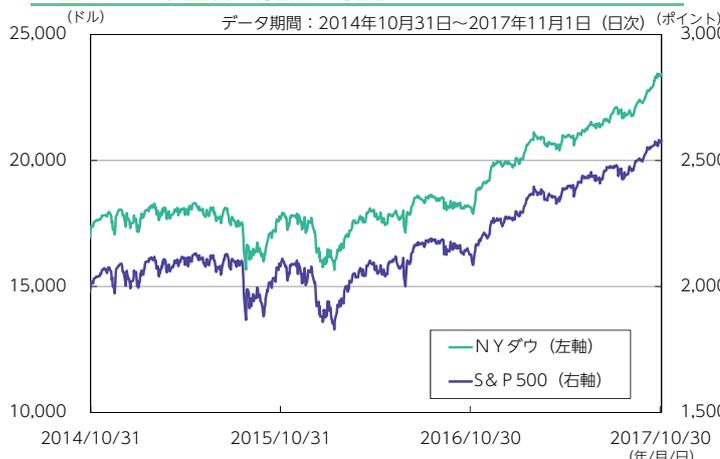
<市場の予想通り金利を据え置き>

- FOMCは10月31～11月1日の定例会合で、市場の大方の予想通り政策金利を現状維持の1.00～1.25%としました。9月の会合では年内あと1回の利上げが想定されていましたが、声明では「経済活動は底堅い拡大が続いている」と示し景気判断が引き上げられ、次の利上げは12月に行われる可能性が高まったとの見方が大勢となりました。
- 9月のFOMCにおいて示されたバランスシート正常化プログラム※については、10月から開始されました。
 - ※バランスシートの縮小計画
 - ① 「米国債 60億ドル」 + 「MBS (住宅ローン担保証券) 等 40億ドル」 = 「合計100億ドル」 を毎月減少
 - ② 3カ月ごとに「米国債は60億ドルずつ」、 「MBS等は40億ドルずつ」 減少速度を速め、1年をかけて「米国債 300億ドル」 + 「MBS等 200億ドル」 = 「合計500億ドル」 を毎月減少させる
- 物価については、30日に発表されたFRB(米連邦準備制度理事会)がインフレ指標としている食品とエネルギー価格を除いた9月のコア個人消費支出(PCE)物価指数は前年比では1.3%上昇と2%を下回る状態が続いています。9月上旬に上陸したハリケーンの影響でエネルギー価格は上昇しましたが、その他の物価上昇圧力は弱いものとなりました。個人消費は前月比で0.6%上昇していますが、貯蓄が2008年以来の低水準となるなど、貯蓄を切り崩す動きが出ています。

<想定どおりの内容で市場の反応は限定的。市場の関心はFRB議長後任人事へ>

- 既に市場では12月の利上げを織り込み始めているとの見方もあります。直近では、下院による段階的な法人減税法案検討報道による減税効果の縮小懸念から金利は低下(価格上昇)していた1日の米国債券市場は、わずかに金利が低下(価格上昇)しました。堅調な企業業績をうけて、度々史上最高値を更新している米国株式市場はNYダウが史上最高値まであとわずかのところまで上昇しました。またスペインカタルーニャ自治州の独立への強硬姿勢などからドルが売られた後、一時反発していた為替市場は、大きな変動はありませんでした。FOMCの結果が想定どおりの内容だったことから、いずれの市場も反応は限定的でした。市場の関心は米国時間2日午後(日本時間3日未明)に発表予定のFRB議長後任人事にあると思われる。今後は年末に向けて米国予算審議や税制改革など重要な案件が多く、神経質な展開が想定されます。

図表1：米国株式指数の推移



図表2：米国債券・為替の推移



出所) 図表1、図表2はブルームバーグデータを基にニッセイアセットマネジメントが作成

●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。●投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。●手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品をお勧めするものではないので、表示することができません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会